

2学期を終えて

第10号 平成28年12月22日(木)発行

東京学芸大学附属大泉小学校

学校長 鎌田 直純

今年も残すところわずかとなりました。華やかなクリスマスがあり、その後新年を迎えます。1月からは、年度とは違った区切りの、新たな生活を始めることとなります。

2学期は多くの大きな行事がありました。運動会は悪天候で翌日に延期、素晴らしい日本晴れの中で行われました。日差しが強く暑い一日でしたが、それにも増して子どもたちの熱い心で競技や演技に打ち込む姿に、心を打たれました。とりわけ6年生の組体操は圧巻で、気持ちを合わせて完成したピラミッドは力強く美しいものでした。6年生の保護者の方々も小学校最後の年の成長した姿をご覧になって、頼もしく思われたことでしょう。

きくまつりは創立記念を祝う一日です。子どもたちが丹精込めて育てた菊の花を皆で鑑賞しました。立派に大きく花開いた菊もありましたが、残念ながらあまりよく育たなかった花もありました。しかし子どもたちの優しい愛情をいっぱいを受けて、すべての菊が輝いて見えました。さわやかな空気のもとで、皆で育てた野菜で作った菊の子汁は本当に美味でした。最後に子どもたちの夢を乗せた風船が空に放たれ、小さく見えなくなるまで見送ったことも、皆の心に残像が強く残ったことでしょう。

全校遠足は、飯能市街地近郊の多峰主山(とうのすやま)に登りました。6年生にとっては、生活団として最後の大きな行事となりました。小さい学年の子どもたちを気遣いながら行動を共にする姿は微笑ましく、また子どもなりのたくましさも感じられました。風の強い寒い一日でしたが幸い天気には恵まれ、頂上からは360度の展望が望め、奥武蔵の山並みだけでなく、富士山も遠くにはっきり眺められました。

菊の子展覧会は2学期最後の大きな行事でした。全校児童が体育館に力作を展示しました。私も観て回りましたが、それぞれ個性的で豊かな表現力があり感心しました。生活団ごとに制作した、いわばステンドグラスのような作品もありましたが、皆で協力し合って仲良く製作していました。

学校は学びの場ではありますが、ただ単に授業だけが学びの場ではありません。他者とかかわり合う様々な行事のなかでも、子どもたちは遊びや共同作業と共にいろいろな知恵を習得していくのです。教室で得た学習も、それらの知恵が相俟って、本当の生きた力となるのだと思います。大泉の菊の子たちには、弾力のある粘り強い心を持ち、健康に育ってほしいと心から祈っています。2017年も保護者の皆様のご理解を頂き、一層力強く、手を携えて参りたいと存じます。